

平成 30 年度の学校評価（年度末評価）

学校評価委員会 (H31.2.14)

<p>本年度の 重点目標</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・キャリア教育の一層の充実 ・授業力の向上と確かな学力の定着 ・望ましい学習習慣、生活習慣の確立 ・帰属意識と自己有用感の涵養 ・教職員が健康的に教育活動に従事できる環境の整備 			
項目（担当）	重点目標	具体的方策	留意事項	評価結果と課題
<p>防災・減災 P T A活動 (総務部)</p>	<p>防災・減災教育に向けたリーダーの育成</p>	<p>各クラスの生活委員を活用した「防災便り」を発行する。</p>	<p>・万一の場合を想定して、自分の命を守る方策や避難及び要救助（救護）者に対して積極的に援助できるようにする。</p>	<p>・生活委員による「防災便り」を教室掲示することができ、意識を高めることができた。定期的に行っていくことが今後の課題である。</p>
	<p>P T A（家庭）との連携強化</p>	<p>本校の学校行事を家庭へアピールし、積極的な参加と活動を促す。</p>	<p>・「HP」や「きずなネット」によって教育活動を積極的にアピールする。 ・明るく楽しいP T A活動を推進して、家庭や地域に愛される学校づくりに努める。</p>	<p>・「HP」や「きずなネット」による保護者の利用状況が高く、教育活動を伝えることができた。家庭や地域に対する情報発信を継続して、学校の魅力を絶えず伝えることが課題である。</p>
<p>学習指導 (教務部)</p>	<p>学習習慣の確立と基礎学力の養成</p>	<p>基礎学力の定着を図る。</p>	<p>・普通科目と商業科目の基礎学力をバランスよく定着する授業を展開する。 ・個々の生徒の学力に応じた適切な指導をする。 ・研究授業などを通して、充実した授業ができるようにする。</p>	<p>・小テストやノート提出をきめ細かに実践できたが、基礎学力の定着まで至っていない。 ・公開授業週間を活用し、教師一人一人の授業力向上に努めた。次年度は学校外部の参観者（中学校教員・保護者）を取り入れ、さらに授業改善をすすめたい。</p>
		<p>家庭学習の充実を図る。</p>	<p>・各学年と協力し、家庭学習の意識向上に努める。 ・毎日の予習や復習を前提とした授業への転換を図る。 ・課題や小テストを定期的に課すなど、家庭での学習時間を作り出す。</p>	<p>・アクティブ・ラーニングをするにあたり生徒の予習及び復習時間が不十分である。各教科と連携し、学習時間の確保に努めたい。 ・成績不振者については、学年と連携し個人面談を行い、粘り強く指導できた。</p>
<p>生徒指導 (生徒指導部)</p>	<p>愛校心溢れる行動で地域から長く愛される学校づくり</p>	<p>本校の魅力を伝え、愛校心を醸成する。</p>	<p>・帰属意識を高め、集団の一員として校則を守り、より良い学校となるように自ら考え行動に移せる生徒を育てる。</p>	<p>・愛校心醸成のために学校の魅力を伝えることができた。指導件数を例年の3分の1に減らすことができた。</p>
	<p>自転車の交通事故防止</p>	<p>全生徒対象に講習会を開くなど、交通事故予防指導を徹底する。</p>	<p>・安全教育を推進し、交通事故に遭わないように予防運転を心がけるように指導する。 ・運転の際のマナーをきちんと理解し、周囲への思いやり運転のできる生徒を育てる。</p>	<p>・事故の件数を減少させることができた。重い荷物を自転車の前かごに乗せたことによる自損事故が多発した。次年度は重点的に、自損事故も起こさないように、荷物の分散など注意喚起をしたい。</p>
	<p>いじめの未然防止と早期発見</p>	<p>全校集会で、いじめ問題を主体的に考える機会を設ける。 「いじめアンケート」を定期的に行う。</p>	<p>・いじめ問題について主体的に考え、自分自身に関わる問題と捉えられる生徒づくりをする。 ・教育相談部や保健厚生部、学年などと連携して学校全体でいじめの早期発見・早期対応に努める。</p>	<p>・いじめは絶対にいけないことを呼びかけた。「いじめられた。」と答えた生徒への対応を確実にすることができた。 ・学期に一度、いじめアンケートを全校生徒に行い、書き込みのある生徒に聞き取りをして即座に対応した。</p>
<p>生徒会活動 (生徒会部)</p>	<p>キャリア教育に基づく生徒会行事の最適な実施</p>	<p>学校行事を通して、キャリア教育を充実させ、生徒の主体性を伸ばす。</p>	<p>・キャリアを積むことを念頭に、主体性を育む場であることを強く意識して、学校行事の一層の充実を図る。 ・生徒の状況を調査し、問題点の集約・再検討を重ねることで各行事を逐次改善する。</p>	<p>・本年度実施した内容について、幅広く意見を集めた。今後も「キャリアを積む」ことを念頭に実施する。 ・執行部員の能力を引き出し、次年度へ向けての新たな取組を企画立案した。実現に向けての指導に努めたい。</p>
		<p>活発な部活動を運営する。</p>	<p>・休養日の設定など健全な部活動運営を模索し、本校のガイドラインを検討する。 ・生徒の安心と安全を確保するために、生徒会費のあり方について検討を重ねる。 ・保護者の学校理解が深まるように、「きずなネット」を有効活用し「届ける」情報公開を継続する。</p>	<p>・部顧問会議を開き、ガイドラインの作成に向けた第一歩を踏み出した。今後は、運用に向けて取り組んでいく。 ・登録費の支出規定を改定し、限られた予算を有効に活用できた。今後は推移を見守っていく。 ・「届ける情報公開」としてHPの更新を密に行うことができた。今後はより魅力を感じる内容と構成にしていく。</p>

教育相談 (教育相談部)	教職員の連携とスクールカウンセラーやスクールソーシャルワーカーの効果的活用	関係部署との連携及び支援体制を充実させる。	<ul style="list-style-type: none"> 問題を抱える生徒の早期発見・情報収集とその支援のあり方を検討する。 生徒の情報を適切に共有し、他の関係部署やスクールカウンセラー、さらに必要に応じてスクールソーシャルワーカーや医療機関などと連携して支援にあたる。 	<ul style="list-style-type: none"> 心のアンケート等の結果や担任、学年団からの情報により、スクールカウンセラー、スクールソーシャルワーカー等の関係部署が連携した支援を行えたケースがあった。また、本年度は教育相談小委員会を新たに設置し、学年間でも生徒に関する情報が共有された。
		スクールカウンセラーや外部の専門機関を活用した教員研修（ケーススタディを含む）の機会を設ける。	<ul style="list-style-type: none"> 特別支援教育の研修の機会を設ける。 学校教育全般において、スクールカウンセラーや外部の専門家・機関などによる支援の充実を図る。 	<ul style="list-style-type: none"> 外部の専門機関に、難しい事案に関して生徒のみならず保護者への対応も協力していただいた。今後も学校だけでは対応困難なケースが予想されるのでより密接に連携して対応したい。 昨年度の課題であった、スクールソーシャルワーカーによる教員研修の機会を2学期に実施することができた。学校だけでなく、家庭に関する問題も増加多様化しているため、スクールソーシャルワーカーによる教員への研修の必要性を感じており、次年度以降も継続して行ないたい。
保健・清掃指導 (保健厚生部)	健康的な生徒の育成と快適な環境づくり	う歯・歯周疾患の早期発見・治療や予防教育を行う。	<ul style="list-style-type: none"> う歯・歯周疾患等の「所見有り」（歯科検診より）の生徒を対象に、早期治療と歯磨きの指導を実施する。 地域の歯科医院での定期検診を勧めることで歯周疾患の予防を図る。 「歯科治療報告書」の100%の提出を目指す。 	<ul style="list-style-type: none"> 本年度も学校歯科医・歯科衛生士の協力のもとで、30人を対象に、歯周疾患の予防について歯科衛生指導を実施した。この指導は5年実施しており、指導の効果も出てきているので来年度以降も継続したい。 歯科治療報告書に、歯科医院での定期検診予定を記入してもらい、主治医による検診受診の機会を増やす働きかけを行った。 平成31年1月8日現在の治療報告書提出率87%であった。
		学校管理下でのけがの減少と重症化を防ぐ。	<ul style="list-style-type: none"> スポーツ振興センターの請求状況を報告する。 「熱中症予防」「心肺蘇生法（AEDの使用法を含む）」の講座を通じて、緊急時やけがの発生時に的確に行動する力をつけさせる。 	<ul style="list-style-type: none"> スポーツ振興センターの請求状況は、保健だよりを使い、生徒へ情報提供をした。 「熱中症予防講座」は、75人の生徒が受講した。「心肺蘇生講座」は、1年生を対象に3月上旬実施予定。
		環境整備の更なる充実を図る。	<ul style="list-style-type: none"> ゴミ発生の抑制（リデュース）、再利用（リユース）、再資源化（リサイクル）への取り組みを学校全体に働きかける。 	<ul style="list-style-type: none"> 関心を持った生徒が授業でも取り上げ、調査研究し、全校生徒の前で発表するなど、少しずつであるが浸透してきた。来年度以降も継続したい。
進路指導 (進路指導部)	キャリア教育の一層の充実による望ましい勤労観・職業観の育成	学年に応じたガイダンスをさらに充実させる。	<ul style="list-style-type: none"> ガイダンスを事後指導にも役立てる。 外部講師による指導で具体的な指導・支援が期待できる。 	<ul style="list-style-type: none"> 3年生に対して、望ましい勤労観・職業観はかなり身近になったが、1、2年生に対してまだまだその育成は不十分であった。1、2年生に対してより一層のキャリア教育の充実を図りたい。
		各教科や分掌などと連携する。	<ul style="list-style-type: none"> 各教科へキャリア教育の視点から、授業などの様々な場面での指導を協力依頼する。 	<ul style="list-style-type: none"> 各教科と、SSTや普通の授業等の試験対策・基礎学力の定着支援で連携できた。 3SICを通じて生徒会などが行う挨拶運動と連携を図りたいが、まだ不十分であった。次年度以降さらに指導を充実させたい。
		分野別の入社・入学前教育を拡充させる。	<ul style="list-style-type: none"> 生徒それぞれの進路に応じた事後指導をさらに拡充させ、卒業後の生活の充実化を図る。 	<ul style="list-style-type: none"> 進路先決定講座も2年目を迎え、体系的な指導ができた。次年度以降もより一層充実させていきたい。
図書館活動 (図書館部)	教科・学年と連携した図書館利用の充実	各教科、学年と連携して図書館の利用を促進するとともに、生徒にとって親しみやすい図書館作りを心がける。	<ul style="list-style-type: none"> 授業等で図書館を有効に利用してもらえるように働きかける。 図書館便りや昇降口展示等による広報活動を更に推し進める。 各教科から購入希望図書を提出してもらい、教科との連携を強める。 生徒図書委員の活動を充実させ、生徒に親しみやすい図書館作りを目指す。 	<ul style="list-style-type: none"> 読書指導を継続することにより、読書に親む姿勢を育てることができた。 図書委員がカウンター当番以外にも図書館便りの作成や、図書のカバー貼りなどで活発に活動することができた。 今後も各教科や学年と連携する機会を作り、図書館の利用を増やしていきたい。

情報管理・情報発信 (教育情報部)	個人情報の適切な管理	ホームページを使って常に学校の最新情報を伝える。	<ul style="list-style-type: none"> 各分掌に働きかけ、学校行事やその他の情報を積極的に提供してもらい、ホームページに掲載する。 本校の魅力を積極的に伝えることを心がける。 	<ul style="list-style-type: none"> 各分掌が自主的かつ積極的にホームページ作成に取り組んでくれたおかげで、本年度も本校の魅力を積極的に伝えることができた。
		個人情報に関するコンプライアンスを徹底させる。	<ul style="list-style-type: none"> 愛知県情報セキュリティポリシーに基づき、教職員の暗号化・パスワード設定を徹底する。 個人情報の取り扱いに関して、電子データ以外もセキュリティ意識を高める働きかけを継続する。 	<ul style="list-style-type: none"> 個人情報に関するコンプライアンスを各自が徹底して行うことができた。 個別に先生方のパスワードの設定状況も確認していただき、意識を高めてもらうよう心掛けた。
	校務支援システムを利用した指導要録の作成	校務支援システムを整備し、校務の効率化や合理化を図る。	<ul style="list-style-type: none"> 校務支援システムを利用した指導要録の作成に関して、安定した運用を目指す。また、現職教育で操作方法などを説明する機会を多く設ける。 	<ul style="list-style-type: none"> 校務支援システムによる指導要録の作成も2年が経過した。次年度は、本年度以上の充実を図りたい。
商業教育 (商業科)	高校卒業時に大学生と同等のビジネススキルを身に付けるための指導の充実	教育課程研究指定校の研究内容となっている「課題研究」の指導体制を確立する。	<ul style="list-style-type: none"> 各学科、重点目標に沿った育成すべき人材像を明確化する。 求める資質・能力と一貫性のある観点別評価規準および評価方法を教員間で共有化する。 授業改善と新たな授業モデルを探究するため先進大学への視察を行い、報告や提案により教員間でその内容を共有する。 	<ul style="list-style-type: none"> 求める資質能力を明確化し商業科教員全員で共有できた。一方、観点別評価規準および評価方法は未だ議論の段階である。次年度以降共有化していきたい。 先進大学へ3校、先進高校へ1校学校訪問できた。教科会にて報告・提案をし、次年度以降の改善点や課題が見つかった。
総合ビジネス科	様々なビジネスシーンに対応できるビジネスリーダーの育成	主体的な学びの授業展開をして、創造力や問題発見能力及びコミュニケーション能力を養う。	<ul style="list-style-type: none"> 授業の中で課題(テーマ)を与え、異なる意見や考え方を受け入れながら、協働的に取組ませる。 顧客や社会に対する視点で様々な課題を見つけ、アイデア企画や商品開発を通して改善策を考えられる指導をする。 	<ul style="list-style-type: none"> テーマを与え、協働的な学びの取組に対して積極的な姿が見られた。 アイデア企画をする上で、顧客や社会に対する視点で考察できなかった。次年度以降は様々なメディアを活用し最近の経済や経営にも触れた学習を取り入れていきたい。
		理論を学び、実践を繰り返して、ビジネスマナーを身につける。	<ul style="list-style-type: none"> 短大やインターンシップ、各授業を通して、仕事に直結した基本的なビジネススキルを身に付けさせる。 「わかる」「知っている」で終わることなく、「できる」まで引き上げ、理論と実践が両立できるようにする。 	<ul style="list-style-type: none"> 課題研究等の各授業で、様々な場面における基本的なビジネスマナーを身に付けることができた。 実際にホテルでテーブルマナーを体験し、体験したことにより理解が深まったことや自ら新しいことを発見できたなどの意見が生徒から挙がった。
情報処理科	情報処理活用能力の育成	データをわかりやすく分析・整理して発信する力を養う。	<ul style="list-style-type: none"> ケーススタディ等を取り入れ、データの持つ意味を深く理解することで、情報を整理・発信する力を養うように指導する。 情報モラルについて考え、適切に情報を扱う力を涵養させる。 	<ul style="list-style-type: none"> 一部の授業ではケーススタディを実施できたが、進捗の関係で時間を確保できない授業もあった。内容を検討し実施できるようにしたい。 各授業において情報モラルについて触れ、情報の取り扱いを考えさせた。
		情報処理の知識の定着を図る。	<ul style="list-style-type: none"> 外部講師の活用など高度資格の取得体制を整える。 習熟度別授業を展開して、きめ細かい学習指導を行い、知識を定着させる。 	<ul style="list-style-type: none"> 冬季休業中に3日間、春期休業中に5日間外部講師によるキャリア講座を実施することができた。 定期考査毎にクラスを見直し、きめ細かい指導が実践できた。個別指導等も組み合わせ、理解度を深めさせたい。
国際ビジネス科	グローバル社会で活躍できる人材育成	国際理解教育を充実する。	<ul style="list-style-type: none"> 異文化と自国文化を学ぶ授業を展開する。 	<ul style="list-style-type: none"> 教科書や新聞、インターネットを活用し国際理解に努めた。その知識を活用出来る機会や、アクティブラーニングを発展させ、多面的に見る力や背景を考える力、他者と協力する力を伸ばす授業に改善したい。
		コミュニケーション能力を育成する。	<ul style="list-style-type: none"> インターンシップを活用し、ワンランク上のビジネススキルが身につく指導を重ねる。 PDCAサイクルを意識した指導を行う。 	<ul style="list-style-type: none"> インターンシップを通して働くことの意義や職業意識の向上に繋がったが、生徒の満足度は不十分であった。 事前に自己分析と仕事研究を十分行い、明確な目的を持たせ、成果を出したい。
		英語の活用能力を育成する。	<ul style="list-style-type: none"> 英語科教員との連携体制を強化する。 英語検定受験に向けた指導体制を整える。 	<ul style="list-style-type: none"> 英語科と連携し英語の活用能力の向上に努めた。長期的な連携ができると更に良いと感じている。

			<ul style="list-style-type: none"> ・研修制度を利用し、指導力の向上を図る。 	<ul style="list-style-type: none"> ・教員の指導力向上のための研修に積極的に参加したい。
経理科	簿記会計活用能力の育成	基礎的な簿記会計の知識が身につく指導をする。	<ul style="list-style-type: none"> ・新しい検定試験範囲の情報を教員間で共有する。 ・専門学校での勉強会へ積極的に参加する。 ・適切な授業プリントや教材等を精選し担当者間で共有する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・新しい範囲を専門学校から教授していただき、授業担当者間で共有した。 ・若手教員を中心に勉強会へ参加する教員が増えた。 ・生徒の習熟に合わせ、授業プリントを担当者間で共有することができた。
		実務での活用を意識した授業改善を行う。	<ul style="list-style-type: none"> ・授業と実務の乖離を埋めるため、企業での簿記会計の活用法を研究する。 ・アクティブ・ラーニングや言語活動を取り入れ実践する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ケーススタディを取り入れたが授業と実務の乖離を埋められているとは言えない。次年度は簿記会計部会と研究内容を連携していきたい。
		高度資格の受験を促す。	<ul style="list-style-type: none"> ・長期休業中を利用し、集中講義を行う。 ・若手教員の指導力向上のため、研修体制を整える。 	<ul style="list-style-type: none"> ・高度資格受験者は増加したが合格者は少数である。 ・若手教員が勉強会へ参加し、学習指導へ反映させることができた。
第1学年 (1年学年会)	社会人基礎力の育成	基本的な生活習慣を確立する。	<ul style="list-style-type: none"> ・挨拶を励行させる。 ・5分前行動を徹底させる。 ・学習の習慣化と「できる」喜びを通して成功体験を増やす。 ・自らを成長させるために、自分で成長目標を立てさせ、それを意識しながらあらゆることにチャレンジさせる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・始業や授業、考査時の着席など、多くの生徒に5分前行動を習慣化させた。 ・学習面は、定期考査以外で学習する習慣が身につかず、3学期の学習テストでは平均点が低く、日頃の学習習慣があらわになった。生徒にどんな体験をさせるのか教員の工夫が必要である。
		コミュニケーション力を養う。	<ul style="list-style-type: none"> ・自らの考えを持ち、それを周囲に伝える能力を培う。 ・集団で活動する機会を増やし、チームで働く大切さを知る。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ポートフォリオ用に、ワークシートに20回程度自分の意見をまとめる機会を設けた。しかし、発表する行事が1度しか設けられなかった。
第2学年 (2年学年会)	学びに向かう力を鍛える。	学びを中心に据えた基本的な生活習慣の確立を図る(自主的に学ぶ力を鍛え上げる土台づくり)。	<ul style="list-style-type: none"> ・学びのつながりや成果を可視化し、自分の変化や成長を自覚化できる仕組みをつくる。 ・生徒が互いに学び合う(「真似び」合う)関係をより深めさせる。 ・担任団で協力し合い、深い学びを目指す学級づくりをする。 	<ul style="list-style-type: none"> ・学習計画実施表を記入させたり、不振科目を持つ生徒を対象に学習会を開催したが、成績不振者を減らすことはできなかった。学習習慣の定着を図り、自主的に学ぶ意識を持たせる「在り方」を今後も工夫していきたい。
		社会性や規範意識を伴った自律心、他者を思いやる豊かな人間性を培う(強い意志で自己を律する心磨き)。	<ul style="list-style-type: none"> ・自分の伝えたいことを自由に伝え合える場をつくり、自分のみならず他人の気持ちにつながりを持たせる。 ・相手目線を心掛けさせるとともに、他人のことを自分ごととして考えられる指導をする。 ・言葉かけと個別指導を通して、全体と個への働きかけを密に行う。 	<ul style="list-style-type: none"> ・学校生活の中で自分の意見を他に伝え、他の意見に耳を傾けることで他者との関わり方を学んだ生徒が多かった。また、部活動では主軸となり、自分と周囲の関係について深く考える経験をした生徒も多い。今後も教育相談部や保健厚生部との連携を密にし、心の成長を促す支援を行っていきたい。
第3学年 (3年学年会)	進路目標の達成	担任・進路指導部等と連携を取り、各個人の進路目標(必要事項)を明確にし、実現のためのサポートをする。	<ul style="list-style-type: none"> ・各生徒が主体的に目標設定できるよう面談及び助言を随時行う。 ・進路閲覧室及び図書館の有効活用を推進する。 ・担任会を活用し、生徒の現状を把握する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・生徒は自らの進路に対し真剣に考え、取り組むことができた。進路指導部や多くの先生方の指導・助言のおかげで進路実現を達成できた。多様化する生徒・保護者の対応を円滑にするためにも、情報共有を図りたい。
	社会が求める人物の育成	前に踏み出す力・考え抜く力・チームで働く力を育成する。また、「なりたい自分」の目標を定める。	<ul style="list-style-type: none"> ・年間の目標を定め、それを達成するための月間目標を作成させる(主体性の育成)。 ・PDCAサイクルを活用し、月目標に向け毎週自分自身を見つめ直し、次のステップへの指導をする(課題発見力・実行力の育成)。 	<ul style="list-style-type: none"> ・年間を通じ、PDCAサイクルの記入をすることで、生徒自らが今何をしなければいけないかを確認し、取り組むことができた。 ・3年間の多くの経験が、生徒を成長させたと感じる。積極性をさらに伸ばしていけると良い。